

第一回シンポジウム
— 日本におけるギリシャ文化研究 —
に出席して

竹 島 俊 之

平成4年11月8日、東京・ゲーティンスティットゥートで、駐日ギリシャ大使館主催により上記のシンポジウムが開かれ、招待されて出席した。

古典、中世および現代のギリシャ文化と何らかの形で関わりのある、さまざまな会から、およそ二百数十名が参加して、それぞれの会の活動状況を報告しあい、各会会員相互の親睦を深め、有意義な一日を過ごした。

日本とギリシャの友好関係をさらに深めたい、とのヴァシス大使の熱のこもった開会の辞の後、日本ギリシャ協会の理事をしておられる武蔵野美術大学の前田正明教授の司会で各会からの代表者が現在の会員数を初めとした活動内容を報告した。参加団体は、日本ギリシャ協会、日本古典学会、地中海学会、バルカン・小アジア研究会—東海大学、日本ギリシャ友好促進自治体協議会、八雲会（ラフカディオ・ハーン研究会）、エーゲ海学会、ギリシャ語・文学研究会—広島、名古屋ギリシャ友の会、地中海研究グループ、ビザンツ研究会、ギリシャへの留学経験者、現代ギリシャ語講座受講生、「プラティア」誌、であった。

午後は日本西洋古典学会会長の藤沢令夫氏の「ギリシャ古典文化と現代世界」というテーマでの記念講演が行われた。内容は近代科学観の基礎はすでに、ギリシャ古典文化の中にみいだされる、というものであり、哲学的内容で、難しいと思われたにもかかわらず、最前列で最後まで傾聴しておられた、ヴァシス大使の姿が印象的だった。

続いて、ギリシャ人ピアニストのリタ・ヴヴリディ氏のピアノコンサートが開かれた。

ビュッフェパーティでは、ギリシャ料理とギリシャワインを味わいながら、旧知の人たちが、再会を喜び、あるいは新たに知り合いになった人たちが、あちこちで小さなグループを作り、歓談が定刻を過ぎても続けられていた。

二階ではヘルソネス書房によるギリシャ書籍展が開かれ、ここにも終日沢

山の人がつめかけていた。

大使の閉会の挨拶の言葉にもあったように、こうしたシンポジウムが今後も引き続き行われ、それぞれの会の間での情報交換が行われ、ギリシャ文化の理解が更にいっそう深まることを期待したい。